

恵まれた環境と子供の成長

中央幼児センター父母と先生の会 会長 諸岡 潤一

令和二年四月に共和町へ転勤してきてから、中央幼児センターには、長女が年長の一年間、長男は二歳児からお世話になっていて、そんな長男も今年四月から年長です。

長女の入園式の翌日、友達ができるか夫婦で心配していましたが、玄関に入った瞬間に「一緒に行こう」と声をかけてくれた子がいて、この幼児センターに入ることができて良かったと思ったのを今でも覚えています。

我が家は共働きのため、子供は朝八時から延長保育が終わるギリギリまで幼児センターで過ごしています。長男を迎えに行くと、毎回笑顔で私に駆け寄ってきて、帰りの車の中でその日一日の出来事を教えてくれます。年を重ねるごとに「今日は○○君と遊んだ」など、友達と遊んだエピソードも増えてきました。その話を聞かされた時に、友達や先生と幼児センターで過ごす時間が、楽しい時間になっていくように安心しています。幼児センターで作ったものや習っ



たことを実際に見せてくれたりもします。コマ回しを習った時は、クラスの中で大会があつて「二位になったんだよ」と教えてくれて、また大会があると行って一生懸命練習していました。

今年の入園式では、家の中でチョロチョロ落ち着きのない長男が、大人しく席に座って、自分の名前が呼

ばれた時は大きな声で「はい！」と返事をする姿を見て、人前でこんなことができるようになったんだと驚きました。

行事はもちろん、幼児センターでの生活を通してながら子供の成長を日々感じさせてもらっています。

また、我が家では昨年からは長女がサッカーを習い始め、その影響からなのか、長男も「サッカーをやりたい」と自分から言い出し、今年の四月から習い始めました。引つ込み思案だと思っていた子が、週二回の練習に

積極的に行く姿を見るたび、親が思っている以上に子供の成長は早いと感じています。

これからも色々なことを経験して、積極性や向上心を育てていってほしいと思います。

コロナ規制の緩和に伴い、幼児センターでは昨年と比べて色々変化のある年になるかと思いますが、父母会においては、子供たちが楽しい思い出をつくれるように、先生方や保護者の方と協力しながら、今年度の行事を運営していきたいと思ひます。

幼小の連携を充実させるために

東陽小学校 教頭 山本 圭介

先日、共和町幼小連絡会総会・研修会に参加し、改めて幼小連携の大切さについて考えさせられました。

私自身、およそ二十年あまりこの後志管内で勤務してきましたが、他の町村と比べたとき、共和町の幼小連携の取り組みはとても先進的です。

今の教育が求めている「幼小連携の充実」が全国的に叫ばれる以前から、その取り組みが進んでいます。言い換えると、共和町には、幼小連携を充実させる土台や要素がしっかりと備わっているといえます。

（オール北海道で取り組む幼児教育）
（幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿）

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ③ 協調

- 性
- ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり
- ⑥ 思考力の芽生え
- ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、標識や文字等への関心・感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現

幼小連携充実の軸となる、「十の柱（幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿）」を保育士の方々、および学校の教職員、そして地域・保護者がしっかりと認識し、共有し、理解した上で子どもを育てていくことが、よりよい子どもの成長に確実につながっていくことは明白です。

では、そのために共和町の人たち（学校の先生方、保育士の方々、地域・保護者の方々）が今後も強く意識し



ていくことは何か?と考えてみました。
 ◎現状をより細かく把握、共有すること
 ◎把握したことを「見える化」し、一般化できるようにする
 ◎幼児センターの職員と小学校の教職員全員が、現状把握したことを「知る」
 ◎幼児センターの保育士の方、小学校の先生方全員が短時間でよいので互いの指導現場・保育現場に行き、その様子を観察する
 今、共和町の幼小連携をより前進させるには、保育士の先生方と学校の先生方がより幼小連携に対して意識を高くもつことが必要です。幼少期の子どもたちの成長を支える原動力の一つが、子どもたちにとって信頼できる大人の存在です。その大人

が、様々な視点で連携を充実させようという気持ちが必要です。
 その上で、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムをよりよい方向に「すり合わせて」いくことも必要です。

こういう取り組みには時間がかかります。考え方も同じではないので、互いが共通理解した上で同じ土俵に

「これからの自分へ」

共和中学校 教諭 中村 樹

私は、熊本県で生まれ沖縄県で高校まで過ごしました。そして千葉県の大学で四年間を過ごし、令和五年四月に北海道後志管内の共和町立共和中学校へ着任しました。今考えても、不思議な人生だと感じています。
 共和町に来て、まず町の広さに驚かされました。四月にまだ雪が残っているという景色にも驚きましたが、私がイメージしていたのどかな北海道の景色が共和町にありました。

共和中学校の職員の皆さんは、本当に温かい人たちばかりで、初任の私に手をさしのべてくれます。早く私も共和中学校の職員の皆さんのようになりたいと、日々を私なりに頑張っています。本当にこの共和中学校での教員生活が私にとってのスタートで良かったと感じています。そしてこの縁を大切にしたいなと感じています。

立つにも時間を要します。しかし、子どもたちの生涯にわたる学びと資質・能力向上を図るためには、幼小連携の充実がこれからも大切に推進されなくてはならないと思います。
 これまでたくさんの人たちが積み重ねてきた、「共和町の幼小連携」がよりよい方向に発展していくことを願ってやみません。

共和中学校の子ども達と日々を過ごしていると、子ども達から沖縄での生活や方言、北海道との違いについて質問されることがたくさんあります。そのときの知らないことを知った喜び、もつと知りたいと感じてくれる無邪気な表情。私は子ども達のこの表情をこれからの学習の指導で、たくさん引き出したいと感じました。そのためにも、私はこの共和中学校で、自分自身の指導力を向上させ、より学びに対して食欲に、知らないことを知りたいと思わせるような問いかけや、教材を準備してあげたいと考えております。

「日々勉強」。私が学生の頃にたくさん聞かされてきた言葉ですが、まさしく今その言葉を痛感しています。始業前の授業準備や保護者対応、放課後の校務など、学生から教員へ視線が変わった今、改めてこの職業の



すごさを実感しています。
 これから私は、教員としてたくさんの日々を過ごしていきます。今まで身につけてきた力を全て発揮して、この仕事を全うするつもりです。沖縄には、「まくとうそーけー」なんくるないさ」という言葉があります。「正しい行いをしていればあるべきようになる。」という意味です。私はこれから様々な困難や壁にぶつかると思います。そんなときはこの言葉のように、これまでに積み重ねてきた自分自身の行いを信じて乗り越えながら共和町の教育に貢献できるように精進していきたいと思っています。